【授業科目】血液検査学実習Ⅱ　Practice of Clinical hematology Ⅱ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
高崎 昭彦	２年次 後　期	必 修	1	30	実習	あり	巻末 掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／本実習では、特に血液細胞の観察について重点的に実習を行う。血液細胞の観察は重要な検査の1つであり、1枚の標本から得られる情報量は多い。末梢血標本及び、骨髄標本について、細胞名を答えられる。細胞を探すことができることを最初の到達目標とする。次に、症例に見られる異常細胞に理解を深める。疾患と出現する細胞を結びつけることを到達目標とする。また、特殊染色についても実践を行い、白血病における診断について理解を深める。遺伝子・染色体検査において、白血病の鑑別が行われており、その鑑別法についても教授する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法//提出されたレポートにコメントをつけて返却する。定期試験について、時間を設けﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸを実施する。口頭試問及び、実技試験関しては、主に口頭でコメントをする。
実務経験に関する 授業内容	臨床検査技師の臨床経験を持つ教員が、臨床検査技師として必要な知識、技術について、臨地の経験を生かし経験談を交えながら教授する。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	① 測定法と基準範囲を説明できる。 ② 末梢血塗抹標本を作製することができる。 ③ 末梢血液像検査では形態学的特徴を説明できる。 ④ 白血球分画を鑑別できる。 ⑤ 骨髄像の分化段階と形態学的特徴を説明できる。
時間外学習に 必要な学修内容 および学習上の助言	顕微鏡を用いる検査の実習が主となる。自身の目で観察し、スケッチする事。観察したものは決めつけず教員の確認を取る事。 現在は教科書などにもきれいな写真が載っているが、顕微鏡を操作し、自分で細胞を見ることに意義があるので、時間いっぱい観察をしてほしい。 第 1～15 回事前学修：指定の教科書及び、血液学、血液検査学Ⅰ、血液検査学Ⅱの授業を復習する（30分）。 第 1～15 回事後学修：実習内容のレポートを作製する（30分）。 ※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。 詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1・2 回　健常成人末梢血液像の観察　　全て　高崎 第 3・4 回　健常成人末梢血液像の観察　白血球分類実技試験 第 5～7 回　毛細血管抵抗試験 第 8・9 回　異常末梢血液像の観察 第 10・11 回　骨髄像の観察 第 12・13 回　特殊染色(MPO染色、エステラーゼ染色)、特殊染色像の観察 第 14 回　骨髄像の観察特殊染色（ALP染色）、特殊染色像の観察 第 15 回　PT,APTT試験、クロスミキシング試験
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 定期試験20%、実習単元ごとのレポート50%、実技テスト 20%、口頭試問 10%
教科書	奈良信雄著『臨床検査学講座血液検査学』 医歯薬出版株式会社 （１年前期「血液学」で使用したものを使用）
参考書等	『病気がみえる　vol.5血液、vol.6免疫・膠原病・感染症』 メディックメディア
学生への メッセージ	実習は各自積極的に取り組む。レポートの作成は自身のレポートを見て、次に同じ手技が出来るように方法、注意点を記載すること。考察は結果から考えられることを書くこと。